

# TAKESHI KAKEHASHI

Official fanclub Newsletter No.23

2017年 初夏号



## ご挨拶



爽やかな気候になってきました。皆さまはお元気でお過ごしでしょうか。僕は皆様のご支援のお陰で今年も元気に演奏を続けています。

ソロ活動を柱に、ダヴィットさんとのデュオのほか今年から新たに、若く才能溢れるチェリスト伊藤悠貴氏とのデュオを始めます。

新しいレパートリーとしてベートーベンの4番の協奏曲を小学校時代の思い出が一杯の八王子で演奏できることは、何より嬉しいことです。

また昨年からは始めたピアノ指導でも、生徒さんがコンサートでとても素敵な演奏をしたのを聴いて、あらためて教えることの喜びを感じています。



この会報が皆さまのお手許に届くくらいの日に、八王子のいちようホールでベートーヴェンピアノ協奏曲第4番を演奏します。



昨年初めて共演した、チェロ奏者の伊藤悠貴氏

## 目次

Page 1

- ◆ご挨拶 梯 剛之
- ◆新聞記事紹介

Page 2~3

- ◆エッセイ 梯 孝則  
田部井淳子氏  
柳澤桂子氏

Page 4

- ◆音楽の友 演奏評
- ◆レコード芸術 CD評

Page 5

- ◆音で繋がった素敵な出会い 笠間孝治

Page 6

- ◆梯剛之チャリティーピアノリサイタルを終えて 風間幸子

Page 7-8

- ◆追っかけ 埜 昌子
- ◆勇気をいただいた梯剛之さんとの出会い 上海道洋子

Page 9

- ◆子どもに伝えるクラシック 活動報告
- ◆石川県小松市立高等学校 岡田世志子

Page 10

- ◆東京都町田市立小川小学校 事務局

Page 11

- ◆東京都町田市立小山中央小学校 事務局

Page 12

- ◆事務局便りCDご紹介

別紙:

コンサート・チケット情報

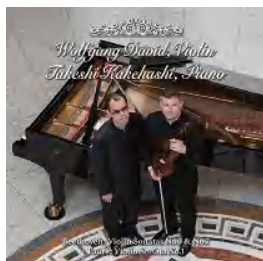
## 【毎日新聞 2016年12月21日夕刊 特選盤コーナーにCD評】

毎日新聞 2016年12月21日夕刊 entertainment面

～ クラシック特選盤コーナー ～

梅津時比古（ジャーナリスト、音楽評論家、桐朋学園大学学長）氏選

・・・ご批評そのまま転載させていただきます・・・



ヴォルフガング・ダヴィット & 梯剛之デュオ・リサイタル

Vol.3

December 2015

CDジャケット

フォーレの1番、ベートーヴェンのソナタ3、7番を収めたライブ録音。2人のアンサンブルはあたかも歌曲デュオのような繊細なきめ細かさで、作品の精神性のひだの内側に沿う。

フォーレの第1楽章のやわらかな表現、第2楽章の深さ、まさに歌の魅力だ。

ベートーヴェンでは様式が今生まれたばかりのような息吹をもたらし、そこに2人の音楽への愛が溶け込む。それにしても2人の相性は素晴らしい。

盲目のピアニストとして時流に乗ったデビュー時、その後の精神的に厳しくなった頃を経て、今、梯はかけがえのない自らの音楽を手に行っている。

梯剛之さんのお父様の梯孝則氏から、今回もエッセイをいただきました。たくさんの方々との交流の中から、最近心にかかったお二方との想いや思い出を語って下さっています。

### § 登山家 田部井淳子さんを偲んで §

剛之のおかげで素晴らしい方々とお知り合いになれるのは本当にありがたいことだ。沢山のそういう方々の一人に田部井淳子さんがいらっしやった。いらっしやったと過去形になるのは本当に残念なのだが、去年の秋に故人になられた。その名前に「ああ、あの人か」とお思いになる方も多いと思うが、彼女はあの世界最高峰エベレストに女性としては世界で最初に登頂した人として有名な人だ。

琴も弾かれるし、ピアノもお上手だった。歌も大変お上手で、近年は同じように歌うことが大好きなセレブ女性たち5人ほどとグループを作られ、「怖いもの知らずの女たち」と銘打ってコンサートを催されていた。そのコンサートに剛之がゲストとして出演したことがきっかけ、様々な形でご一緒させていただいた。思い出すだけでも、彼女の出身地福島県三春市、長野県駒ヶ根市、新潟県佐渡市と日ごろなかなか行けないところにご一緒に行けたことは得難い思い出になった。終演後に、お好きだった日本酒を飲みながらジョークを交えて談笑されているお姿を思い出すが、大変な病気を抱えて治療中とは微塵も感じられず、それは過去形で、すっかり快癒されたものと思っていた。しばらくお声がかからないなあと思っていたら、突然訃報が届いて愕然とした。

先般「田部井さんを送る会」が母校である昭和女子大のキャパ800のホールで催されたが、国の内外から集まった人が会場に納まらなくて、倍する人が会場の外で献花の順番を待つという事態に、改めてそれまでの田部井さんの活動とその人望の厚さを実感した。献花の時にバックミュージックとして剛之のピアノ演奏を捧げることが出来たことは大変光栄なことだった。亡くなる直前まで綴っておられた手記が「送る会」の参列者全員に配られたが、その中に、佐渡のコンサートで、剛之が演奏する曲の一つとしてモーツァルトのピアノソナタK. 331の第3楽章（トルコ行進曲）だけ弾く予定だったのに、何を血迷ったか、第1楽章から弾き始めてしまい、舞台袖にいた僕があわてふためいた様子を活字として残して下さったことは大変光栄というか、大変複雑な心境だ。



田部井 淳子氏

(たべい じゅんこ)

1939年9月22日-2016年10月20日

日本の登山家。

女性として世界で初めて世界最高峰エベレストおよび七大陸最高峰への登頂に成功したことで知られる。

福島県田村郡三春町出身。



田部井淳子さんと共演した佐渡市で、佐渡市教育委員会主催の「親子に伝えるクラシック」として梯剛之さんのピアノリサイタルが開催されます。（佐渡市教育講演会行事ですが一般の方も歓迎。入場無料）  
2017年6月25日（日）19：00～（予定） 於：新潟県佐渡市中原 アミューズメント佐渡 大ホール

§ 柳澤桂子さんからの嬉しい電話 §

先日、柳澤桂子さんから嬉しい電話があった。ベトナム出身のピアニスト、ダン・タイ・ソンが剛之のCDを気に入ってくれたという内容だった。

生物学者・柳澤桂子さんとの交流は、剛之がロン・ティボーで入賞した直後、まだ20歳になるかならないかのころに、NHKのテレビの番組で対談したのがきっかけだった。柳澤さんからは著作が発刊されるたびにその本を頂戴し、剛之のCDが出来ると送らせていただくという関係を続けてきた。

彼女はお子さんを出産された後、原因不明の激痛を伴う難病におかされ、現在も闘病生活を強いられておられる。執筆された本を献呈されて読んで以来、僕にとって最も尊敬する一人になった。般若心経を物理学的な視点から解釈された本がベストセラーになったことがあるので、ファンクラブの中にもお読みになった方がいらっしゃるかもしれない。

剛之のコンサートにご本人はおいでになれないので、僕自身は一度もお目にかかったことはないが、剛之のことを心配してかけて下さった電話の中で、「自分が一番と思っている著作が一般に売れるわけではないのよね」と暗に剛之のことに引っ掛けて、自分の本のことを言われた時に、この般若心経のことを言われているのだなと合点がいったことがある。僕としても悠久の生命の歴史を通して人類の未来を憂えた著作「いのちと環境」に一番感銘を受け、僕の政治的立場の基幹にしている。

柳澤さんは最近目は悪くなられ、本を読むのが大変になられたご様子で、音楽を聴くのが、より楽しみになられていると聞く。剛之のことを我がことのように気遣って下さり、音楽関係の本で剛之に読ませたい本を送って下さったりもする。その本の中に台湾の人が世界の現代のピアニストにインタビューした3冊の本があるのだが、その3冊目の冒頭に出てくるのがダン・タイ・ソンで、ちょうどその本を読んでいる最中の電話だった。それは、以前、ご親戚筋の音楽大学の名誉教授に剛之のCDを送って紹介して下さったことがあったのだが、その方のお宅にダン・タイ・ソンが遊びに来た時にそのCDを聴かせたら、モーツァルトの演奏をととても気に入ってくれて、「このCDをもらえないか？」と持って帰ったという。その話を我がことのように喜んで、報告の電話を下さったのだ。剛之もダン・タイ・ソンの演奏は大好きなので、大変嬉しいニュースとなった。



柳澤桂子氏  
(やなぎさわ けいこ)  
1938年1月12日 ~

生命学者、サイエンスライター、エッセイスト、歌人。東京都出身。

「いのちと環境」  
「生きて死ぬ智慧」  
「いのちのことば」  
「永遠の中に生きる」  
他著作多数



梯孝則PROFILE :

1962年国立音楽大学入学、1977年N響入団。2003年N響定年退団。

現在は「古典音楽協会」「アカンサスⅡ」「N響団友オーケストラ」各団員として音楽活動を継続している。



■音楽の友2月号(2017年2) 東京:JTアートホール演奏会評が掲載されました  
 演奏会日時:2016年12月13日  
 ◆場所:東京/虎ノ門 JTアートホール アフィニス  
 ◆ヴォルフガング・ダヴィッド&梯剛之  
 デュオ・リサイタル2016



鍵盤  
 ヴォルフガング・ダヴィ  
 ヴィッドvn&梯剛之p

12月13日・JTアートホールアフィニス●モーツァルト「ヴァイオリン・ソナタ」変ホ長調K481「同」イ長調K305、ドビュッシー「ヴァイオリン・ソナタ」、ベートーヴェン「ヴァイオリン・ソナタ第10番」

3、4年前に出会って以来、ウィーン近郊出身35歳のヴァイオリニスト、ヴォルフガング・ダヴィッドと梯剛之は気の合ったデュオを続けてきた。ライナー・キユッヒル門下のダヴィッドは柔軟で端麗な芸風の持主で、今回前半に弾いたモーツァルトのソナタ2曲(変ホ長調K481とイ長調K305)では、相変らずきわ立って美しい梯の音色と共に申しぶんのない演奏を聴かせた。後半はドビュッシー「ソナタ」から、ダヴィッドと梯は以前にもフランクやフォーレを聴かせており、フランスものとも相性がよい。明晰さとしなやかさに、気分の乗りも加味された好演だった。あとはベートーヴェン「ソナタ第10番」。40歳の作ながら後年の熟成した深味を予告するようなこのソナタの味わいを、二人はじっくりと表現し、聴き手に満足をもたらした。アンコールはウィーンの人らしくクライスラー3曲。こうした曲まで梯はすべて頭に入っているのか、と改めて感心する。●濱田滋郎

■レコード芸術 2月号(2017年2)【下記CDが準特選盤になりました】

♪ ウォルフガング・ダヴィッド&梯剛之デュオ・リサイタルVol.3 December 2015 ♪

大木正純●Masazumi Ohki



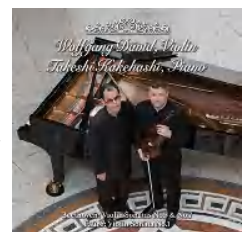
【準】オーストリアの中堅ヴォルフガング・ダヴィッドと梯剛之のデュオ・ライブ盤はこれが3点目。前回の第2弾からほぼ10か月後、2015年12月に行われたJTアートホール アフィニスにおけるリサイタルを収録している。曲目はフランス系のソナタ1曲とベートーヴェンの2曲を組み合わせるという意味で前回と同じ構成。ディスクでは初めにフォーレの第1番が置かれ、そのあとにベートーヴェンの第3番と第7番が並んでいる。

注目はフォーレだ。第1番は一般には青春の悦びがはち切れそうな陽性の演奏が多いと思うのだが、ここではヴァイオリンもピアノも一貫して繊細なタッチに終始して、手放しの喜びには身を委ねない。むしろ切ない情感をそこそこに醸し出す。それが恋愛感情という、なるほど胸を弾ませる想いではあっても、その裏にはなぜか常に悲しみのつきまとう不思議な心の作用の本質を絶妙に浮き彫りにするようで、私ははなはだ興味深く聴いた。なお第2楽章は切々とした訴えのある引き締まった緩徐楽章ではあるが、奏者たち持ち前の一種の潔癖性が硬質な表現につながる部分がなくもない。

ベートーヴェンになると、とりわけヴァイオリンにいきいきとした生彩が加味される印象だ。中でも第7番はここぞとパワーを全開にした熱演。2曲とも緩徐楽章の格調高いカンタービレが、2人の誠実な音楽性を美しく映し出している。

石田善之●Yoshiyuki Ishida

【録音評】2015年12月のライブ収録と記載されているが、聴衆の気配や演奏後の拍手などはなくノイズ感も非常に少ない。中央にヴァイオリン、やや下がった位置にピアノが広がる音像感だが、空間性や音の持つ解放感、のびやかさなどは少々おとなしめ。ヴァイオリンはモノラルとまでは言わないまでも音像のまとまりが重視された印象で、のびやかな広がりという印象は薄い。



CDジャケット

※上記記事は、音楽之社様及び濱田滋郎様(音楽の友誌)、大木正純様(レコード芸術誌)、石田善之様(レコード芸術誌)より転載のご了解を頂戴しております。ご関係者様のご協力に心より感謝申し上げます。

§ 音で繋がった素敵な出会い § 石川県小松市 笠間孝治

梯剛之さんとの出会いのきっかけは2014年にさかのぼる。

友人が梯剛之さんのリサイタルに行った話を私にしてくれた。それがきっかけで、その夜早速、梯さんのCDをアマゾンで注文した。「PLAYS MOZART」。数日後、CDが届き、最初の音を聞いた瞬間、透明感に感動し、喜びが溢れた。数日後友人にCDを聞いた時の感動を喋り、来年もしリサイタルがあったら自分も行きたいと言った。

2015年冬、小松でのリサイタル決定。友人は、主催者の木田さんに「私の友達にこんな人がいる」と私のことを紹介してくれ、チケットを手に入れてくれた。ヴォルフガング・ダヴィッドさんとのデュオリサイタル。

リサイタル当日、私はとにかく梯さんのピアノがお目当てだったので、梯さんのピアノの音を聞き漏らすまいと耳をすましていたことを思い出す。

そして2016年の冬。この年も友人を通じてチケットを頼んだところ、「直接お渡ししたい」とのことで、主催者の木田さんにお会いすることになった。窓から木場潟と白山が眺望できるテーブルで、私たちは、梯さんのピアノの音に魅了された体験を語り合い、木田さんから、梯さんのクリスタルなピアノの音のファンになって追っかけたエピソードや小松でのリサイタルへの思いをお聞きし、帰りには、梯剛之さんのCD「水の反映」と本を貸していただいた。素敵なひと時だった。木田さんと出会えたことに感動し、引き合わせてくれた友人にも心から感謝した。

木田さんご夫妻との出会いから、どんどん奇跡的なことが起こることになった。

剛之さん、ダヴィッドさんを囲んでの食事会での実行委員会「オトガク」の仲間の皆さんとの初めての出会い、そしてダヴィッドさん、梯剛之さん、剛之さんのお父様との出会い。

朗らかでユーモアたっぷりのダヴィッドさんのおしゃべりに一緒に笑い、参加者のお子さんからの質問に答える剛之さんの姿に誠実さを感じ、頻りに飛び出す剛之さんの駄洒落に親しみを感じ、距離感がぐっと縮まった。また、ほろ酔いのお父さんとも「子供に伝えるクラシック」の活動について話し合ったりすることができた。本物の梯さんを間近でみて一緒に食事して、駄洒落を聞いてこんなすごいことがあっさり起こったんだなあ。まさに奇跡。

リサイタル前日、リハーサルの様子を見学することができた。そこで見た二人の姿は、前の晩とは違うすごい集中した姿だった。演奏を止めて指摘したり、確かめたりしているやり取りを見て、二人とも音へのこだわりがものすごいと思った。何度も合わせて自分たちの音を追求することに時間いっぱい取り組んでいた。



いよいよ当日、ダヴィッドさんのエスコートで登場した二人の姿を見て、初めて見た2015年とは違った感じを受けた。それは互いに磨き合い支え合い、尊敬し信頼し合う相棒という感じだった。こんなふうと一緒に演奏ができるって素敵だなあ、自分もそんな相棒を見つけてギターで弾き語りができたらいいだろうなあと夢みたいなことをふっと思ったことを覚えている。

さあ、演奏が始まる。二人は呼吸でわかるんだ。ぴったりと息の合った演奏だ。今回は梯さんの音だけを聞き取ろうとしていた私だったが、今はヴァイオリンとピアノ、二人の作る素晴らしい音を心から楽しむことができた。

CDの音に魅了されたことから、木田さんとの出会い、食事会でダヴィッドさん、剛之さんとの出会い、リハ、本番と参加することができ、お二人の人柄まで知ることができた。

音で繋がった素敵な出会いを、つながりとしてこれからも大切にしていきたい。



ダヴィッドさんと剛之さん  
木場潟周辺を散歩



## § 梯剛之チャリティーピアノリサイタルを終えて § 東京都町田市 風間幸子

2017年2月4日、梯剛之さんのチャリティーリサイタルが小田急線鶴川駅近くにある和光大学ポプリホール鶴川で行われました。

私が梯さんの演奏を初めて聴いたのは、15年ほど前、八王子のあるイベントでゲストとして出演された時のことでした。ショパンのノクターン1曲の演奏でしたが、その優しい音色はずっと忘れられずにいました。梯さんの、指を優しく、時には激しくピアノにタッチして醸し出してゆく音色は、梯さんだけが出せる音色として、際立って深く美しく私の胸に響きます。そのピアノを聴いていると、まるでウィーンの美しい森の中、小鳥のさえずり、静かな水の流れや風の音が聞こえてくるかのようです。

数年前に改めて、東京・紀尾井ホールで行われたリサイタルを聴きました。15年前よりさらにフォルテの力強さ、ピアノシモの静かな音色が胸に染みてきました。素晴らしい演奏に感激した私は、今まで聴きに行けなかった分を埋めるため、情報を一つでも多く、少しでも早く知りたいと、ファンクラブに入会しました。

その後、私に大きな夢が膨らみ始めました。世界的にも有名な梯剛之さんのコンサートを、地元町田で開きたい、そんな大それたことを考え始めたのです。

私は全盲の視覚障害者です。小さなイベントの企画もしたことがありません。資金のあてもなければ、応援してくれる有力者もいません。ホールはどこで？チケットやパンフレットの印刷は？何から始めたらよいか、わかりませんでした。そんな状況だったにもかかわらず、私は、梯さんに、町田市内のホールでコンサートをしていただきたいとのお願いをしていました。日程も2017年2月4日（日曜日）の午後と決め、この企画に強い思いをもって臨んでいくことになったのでした。

町田ではたくさんのクラシックのソリストがコンサートを開いているのに、梯さんがまだとは意外でした。きっと日本を長く留守にしていたからでしょう。町田市は東京都ですが、都内に出るには遠く、夜のコンサートでは聴きに行くことが難しい地元や近隣の障害者とたくさんの友やクラシックファンに梯さんの素晴らしい演奏を聴いてほしい。きっと私と同じ感動で心癒される人がたくさんいると思ったからです。まず、ファンクラブ事務局の星田さんに思いを伝えました。その後、稲田さんをはじめ15人の協力者で実行委員会が立ち上がりました。全体の流れは星田さんが進めてくださり、パンフレット作成とステージまわりは稲田さん、チラシやパンフレットの校正は松本さん。それぞれの方がご自身の経験を基に順調に準備が進められていきました。経費を除く収益金全額が町田市視覚障害者協会に寄付することも決められました。その結果、町田市、町田市社会福祉協議会、町田市身体障害者福祉協会の後援もいただくことができ、PRも順調でした。チケットは、なんと3か月前に完売してしまったので、チケットの問い合わせには、うれしい悲鳴とはこのことかと思いつながらの対応でした。

待ちに待ったリサイタル当日は晴天、2月にしては本当に暖かい穏やかな日となりました。座席は満席。当日券はありませんと言っていたのに、もしやキャンセルがないかと期待を持っての来場者もあつたほどです。まさに会場は「梯剛之チャリティーピアノリサイタル」一色でした。

梯さんは1曲ごとに、ご自身の思い出、作曲家のエピソードを交えての解説をしながら演奏されました。これも視覚障害者がたくさん来場していることを知っての優しい思いの表れと思います。

2時間はあっという間に過ぎていきました。今までクラシックを聴いたことがない人からも「素晴らしかった」「梯さんのトークは演奏と同じやさしさで癒された」「また次を楽しみにしています」「おばあちゃんにCD買ったので聴かせます」等々の感動の声が、、、。終演後、受付にいた私は皆さんからの声をたくさんいただいて幸せな時を過ごしました。協賛していただいた「神奈川東部ヤクルト販売株式会社」様からはお土産のヤクルトが全員に配られました。

今回のリサイタルでは、単独で来た視覚障害者を誘導する人、席が次々に埋まってゆく中、空席へと案内する人、急病人が出たら救急車に同乗してくれる人、と、実行委員や当日のボランティアの方たちそれぞれが当事者意識をもって事に当たってくださったことで、事故もなく気持ちのよい盛大な会になりました。2か月過ぎた今も私の胸には、リサイタルに携わってくださったすべての人たちへの感謝の思いがわきあがってきます。

梯剛之様、これからもずっと美しい、心癒されるピアノの音色をたくさんの人たちに聴かせていってください。

§ 追っかけ §

神奈川県中郡 塙 昌子

一昨年10月の末、私は北海道の釧路へ行くべく羽田空港にいた。全然会ったことも無い人達と。会えるかどうか不安であった。きょろきょろあたりを見回していると、携帯電話が鳴った。同行するNさんであった。お互いすぐ近くにいて携帯をかけあっていた。

私たちはピアニスト、梯剛之さんのファンクラブに属している。梯さんの演奏を初めて聴いたのは5、6年前頃だったか。確かにその時は彼が盲目にもかかわらず見事にピアノを弾きこなすことにまず驚き、いつの間にか心が癒される柔らかな音色に引き込まれた。

私は特にクラシックに造詣が深いわけでもなく、ピアノの音が好きという程度なのだが。それ以来機会があれば梯さんを聴いた。ファンクラブにも自ら入会したが、入会金を支払っただけですらも忘れていた。

昨年の夏、突然ファンクラブの事務局長から電話があり、「北海道で彼のコンサートがあるから行きませんか」とのこと。「えー！北海道？」一瞬迷ったが、行こうと決断。

Nさんが一行を紹介してくれた。総勢6名。皆さん私より若い。釧路空港には、一足早く事務局長が行っていて車で迎えてくれた。飛行機の中で、皆、梯さんの熱烈なファンで、彼のコンサートにはどんな所でも駆けつけるなどの話を聞いた。「追っかけ」の話は聞いたことはあった。皆さん梯さんのまさにその「追っかけ」なのだ。北海道のコンサートは4回あり最後のコンサートを聴く。

そのコンサートは梯さんの個人のファンのお宅でご主人がギター、奥様がピアノをなさるとのこと。100人ぐらいの方が梯さんを迎えた。梯さんは4回目のコンサートなのに熱演で部屋の空気がびんびん震えた。梯さんは30代後半？まさに脂が乗りきっている演奏家なのだ。ホテルではミニコンサートを私たちのために開いてくださり、ドビュッシーの「月の光」が私の心の中にすっとはいつてきた。北海道まで来た甲斐があった。

翌日は梯さんと付き添いのお父上とご一緒に観光。一日梯さんと行動を共にして、彼の駄洒落が好きで屈託のない明るい性格に感心した。同時に盲目の不自由さがどんなものかも実感した。それを克服し素晴らしい音を聞かせてくれる梯さんに改めて私も熱い思いが湧いてきた。よし！私も及ばずながら彼をできるだけ応援し「追っかけ」になろう。

追っかけなんて私の一生に無縁と思っていたのだが、今年の6月には梯さんの第二の故郷であるオーストリアのウイーンにまで行くことになった。(2016年5月 記)

(本文は2016年8月にご寄稿頂いたものです。頂戴した文章をそのまま掲載させていただきました)

§ 勇気をいただいた梯剛之さんとの出会い §

神奈川県横浜市 上海道洋子

私がピアノを始めたのは小学校の時でしたが、それからはピアノがいつも傍らにあるという日常となり、今に至るまで日々の生活の一部になっています。音大のピアノ科を卒業した後は子どもたちのピアノの指導にあたっていました。いろいろな家庭環境や性格の子どもたち相手に私が一番心がけたことは、音楽は音を楽しむもので苦しむものではないということでした。その子らしく気持ちよく弾いたら拍手をして喜び合う、そのような時を当たり前のように過ごしてきました。

ところがある時から、その当たり前の生活が一変する事態となりました。目の調子が悪くなったのです。楽譜や鍵盤が見えにくくなるようになり、息子たちを送り迎えしていた車の運転にも支障を来すようになりました。今ではもう楽譜も見ることが出来ません。徐々に悪くなる目の状態に心が落ち込み、自殺まで頭をよぎるような苦しい日々を過ごすことになりました。

こうした悶々としていた時、私は梯さんに救われたのでした。梯さんのピアノは以前から大好きで、聴きに行ったコンサートでファンクラブの存在を知り、すぐ入会しました。入会後はお仲間も増え、欠かさずといってよいほど梯さんの演奏会に伺い、懇親会に参加させていただくことで梯さんとも親しくお話ができるようになりました。思いがけなくも、まったく私的なことですが、私どもの長男が梯さんとお誕生日が一緒だと分かったときは、手前勝手なこととはいえ、ご縁を感じ何か嬉しかったものです。



被災地の南三陸庁舎前で祈りをささげる梯さん

それからしばらくしてあの悲しい2011年3月11日に東日本大震災が発生。その1年後に梯さんは被災地支援

に廻られました。主人がピアノの調律師ということもあって同行させていただきました。被災地で剛之さんの奏でるピアノでたくさんの子どもたちが安らぎの時間を共有したと実感するとともに、私も癒されていました。

そんなある日の夕食時です。私にとってこの機会がなかったら今の私はなかったと思う出来事がありました。ふとした会話の中で梯さんは「上海道さんは光はわかるのですか？」と聞かれました。今までに初めて聞かれたことでしたので、思わず「光はわかるんです。夜と昼の様子はわかるんです」とせき込んで返事をしますと、「それはいいなー。それはよかったー。僕は光を見たことはないんです」梯さんのきれいな心がそのままに、まるで自分のことのように、私に嬉しそうに「よかった、、、」と言葉を發させたのでしょう。その瞬間、私はなんて贅沢なことで落ち込んでいたのだろう、と目を覚まさせられた思いでした。あの時の「よかった、、、」という梯さんの言葉が今の私の原点にあります。

梯さんのピアノはできる限り聴かせていただいています。気が付いたことに目が悪くなってから耳がだんだん研ぎ澄まされて音がわかるようになったのです。マイナスになった分何かが補われるのです。今の時代、誰でもがその人なりの大変さを抱えていると思います。私は梯さんとの出会いで、外に出られるようになり、今は何かに夢中になりたくて歩行訓練、パソコン、点字、等々を教えてもらいに、横浜から新宿区まで一人で通っています。以前触ったこともないパソコンも少しずつ使えるようになり、点字もゆっくりでも本が読めるようになりました。今は欲を出して点字楽譜にも挑戦しています。いくつになってもやるかやらないかです。そこからまた本当の人とのつながりも出てきます。そんなことが出来るようになったきっかけを気づかせてくださった梯さん、ありがとう!! 心から感謝しております。



点字を学習中

これからも梯さんの音を、音楽家としての梯剛之の独自の音楽を、楽しみにして陰ながら応援させていただきます

### CDのご案内 1995年TAKESHI KAKEHASHI PLAYS MOZART 1 および 1997年 No.2

大変ご好評いただいたシリーズです。事務局の在庫が僅かになって参りましたので、ご案内致します。



**1995年 収録曲：モーツァルト**  
 ピアノ・ソナタ 第5番 ト長調 K.283  
 ロンド イ短調 K.511  
 ロンド ニ長調 K.485  
 幻想曲 ニ短調 K.397  
 ピアノ・ソナタ 第11番 イ長調 K.331



**1997年 収録曲：モーツァルト**  
 ピアノ・ソナタ 第10番 ハ長調 K.330  
 ピアノ・ソナタ 第4番 変ホ長調 K.282  
 ピアノ・ソナタ 第15番 ハ長調 K.545  
 ピアノ・ソナタ 第12番 ヘ長調 K.332

ファンクラブでは会員の方に各**2,700円(税・送料込)**にてお分けします。

申し込み：事務局 E-mail [takeshikakehashiofc@gmail.com](mailto:takeshikakehashiofc@gmail.com) FAX:03-3421-9772

#### ♥♥子どもに伝えるクラシック事務局より♥♥

子どもに伝えるクラシックHPには、自主活動の動画をUPしています。

<http://classic-for-children.org/>

この活動は、主として学校や被災地でのコンサート活動を軸とし、梯さんご自身のピアノ演奏を通じ、勇気や感動を感じて頂いたりクラシック音楽により親しむきっかけとなればと願って実施しております。会員の皆さまの母校やご関係先など、希望される学校がありましたら是非お気軽に下記事務局までご相談ください。

事務局 E-mail : [info@classicforchildren.org](mailto:info@classicforchildren.org) FAX : 03-3421-9772



子どもに伝えるクラシック 活動報告

♥2016年度下半期に実施された活動♥

2016年 11月 24日 東京都町田市 小川小学校  
 12月 8日 石川県小松市 小松市立高等学校 芸術コース  
 2017年 1月 22日 東京都町田市 小山中央小学校

♥2017年度上半期に予定されている活動♥

2017年 7月 28日 北海道 旭川市  
 7月 未定 北海道 旭川市  
 2017年 8月 22日 長野県 安曇野市立穂高東中学校

§ 石川県 小松市立高等学校 芸術コース で演奏 §

小松での子どもに伝えるクラシック活動も3度目を迎えました。過去2回は市内の小学校で、今回は小松市立高校芸術コース音楽専攻科の生徒約50名を対象に行いました。

【日 時】2016年12月8日

【演奏曲目】モーツァルト ヴァイオリンソナタ イ長調K. 305 第1楽章  
 ドビュッシー ヴァイオリンソナタ 第2楽章  
 ショパン ノクターン第20番「遺作」 (ピアノソロ)  
 クライスラー ウィーン風小行進曲／シンコペーション／愛の悲しみ

報告は、生徒たちの後ろで演奏をお聴きくださった岡田世志子さんをお願いしました。岡田さんは全盲ですが、小松市内の多くの学校で講演活動をされるなど精力的に子どもたちと関わっておられます。また子どもに伝えるクラシックとともにこまつ芸術劇場うららでのデュオ・リサイタルも毎年お聴きくださっています。感想をお聞きするという形でご了解を得、書き起こしたものをお届け致します。(聞き書き：小松市 木田徳子)

\*\*\*\*\*

梯さんのように地方に來られてこのように訪問演奏されることは、本当に素晴らしく誰にでもできることではありません。とても感謝しています。またヴォルフガングさんもこの活動を理解され、お二人仲良く一緒に演奏していることが嬉しいです。

高校での演奏会では、演奏が始まるといっぺんに春が來たような温かい雰囲気を感じました。今年演奏前にお二人の演奏曲への思いをわかりやすく話して下さったので、その思いを感じながら演奏を聴くことが出来、より理解が深くなりました。こんなに素晴らしい演奏は、音楽専攻科の生徒さんだけではなく全校生徒さんにも聴いてほしかったです。

昨年は小学校での演奏も聴かせていただきましたが、子どもたちがお二人の伴奏に合わせて最後に歌った曲を聴いて涙が止まりませんでした。ここに至るまでのご両親のご苦労とかご本人が努力して今がある大変さとか。子どもたちは、目が見えなくてもこんなに素晴らしいことが出来るということを感じていました。今までの私自身の経験もここに繋がっているのかとか、さまざまな思いが一緒になって、とにかく涙が止まりませんでした。小学生の素直な子どもたちの歌う声の優しさが、梯さんたちの弾く旋律にぴったりで心が一体になったという感じ。昨年のことですがこちらもぜひお伝えしたかったです。

子どもたちには素直に感動できる天使のような心がたくさんあります。でも、大きくなるにつれてそれが段々失われていってしまう。この天使のような心を、よい音楽やお話を沢山聴いて、失わずに育ててほしいです。

19 【かが白山総合】 2016年(平成28年)12月9日(金曜日)

北 陸 中 日 新 聞



息の合った演奏を披露する梯剛之さんとホルフガング・ダビットさん=小松市立高で

### プロの演奏、逸話を披露

小松市立高 ピアノ奏者・梯さんら

世界で活躍する全員のピアニスト、梯剛之さんと、ウイーン在住のバイオリニスト、ホルフガング・ダビットさんのデュオが八日、小松市立高校芸術コース音楽専攻の生徒四十九人を前に演奏を披露した。

モーツァルトやクライスラーなどの六曲を息ぴったり披露。演奏の前には作曲家の人生や曲にまつわるエピソードなども紹介した。生徒たちは、間近で聞くプロの演奏に興奮した様子だった。

生徒からの「どのように息を合わせているんですか」という質問に、梯さんは「信頼関係があるので、音の波を聞けば相手はどう演奏するか分かる」と答えていた。梯さんは、被災した子どもなどを演奏で支援する団体「子どもに伝えるクラシック」で活動する。今回は、九日に市内で開くコンサートに合わせて同校を訪れた。

(竹内なぎ)

小松市立高等学校での“子どもに伝えるクラシック”の活動が北陸中日新聞に掲載されました

## § 東京都町田市 小川小学校 音楽鑑賞会 §

【日 程】2016年11月2日(金)

ほぼ50年ぶりという町田としてはあまりにも早い雪に見舞われたこの日、町田市立小川小学校、全校の生徒さん530名を対象に演奏活動を行いました。

昨年4月に会員の風間さんからこのお話を戴き、ピアノの設置場所など、懸案事項がいくつかありましたが、中田校長先生をはじめ担当の先生、ボランティアコーディネーターの新井様など多くの皆さまのご協力により、漸く実現した活動です。

当日の思わぬ雪に演奏場所の体育館が寒いだろうと、先生方のお心遣いで、朝早くからストーブを焚いて会場を暖めて下さっていました。10:00に学校に到着した梯さんは早速この日の演奏曲のリハーサルを済ませ、ピアノを調律された上海道さんと打合せ、問題なく準備が終了。お昼は生徒さんと同じ学校の給食を関係者と一緒に頂きました。

演奏は13:40からです。ピアノの近くに居る生徒さんは梯さんの指の動きに眼が釘付けでした。質問コーナーでも沢山の手が挙がり嬉しい限りでした。次いで梯さんの伴奏で生徒さん全員での合唱「ビリーブ」。最後に6年生の女子児童さんがピアノ伴奏をしての校歌合唱のプレゼントをして下さいました。終了後、梯さんの控室前を通る皆さんたちから、大きな声で沢山の「有難うございました!」「これからも頑張ってください!!」「さようならー!」の明るい元気な労いの気持ちの伝わるお声掛けに、関係者一同感激したことでした。

また、学校のご判断でPTAの皆さま方からこの活動へのご支援としてご寄附を賜りましたこと、併せて頂戴した花束をお母様方がリースに仕上げ改めて梯さんに贈って頂きましたことなど、細やかなお心遣いを頂戴致しました。心から感謝申し上げます。(事務局 星田啓子)

小山中央小学校  
♪開校記念コンサート  
プログラム

- 1 校長先生のお話
- 2 自己紹介
- 3 ピアノ演奏
  - ・「陽気」より「上」馬トコロキ
  - ・「2つのアタカシカ」
  - ・「ワルツ」
  - ・「ゆかいな歌けだ」
  - ・「ビリーブ」
- 4 お礼の言葉 (6年生)
- 5 校歌 (合唱)

日時 2017年 3月27日(金)  
会期 13:40-14:20  
会場 音楽室

♪ピアノ演奏 顧問: 藤田 先生

小川小学校で制作して下さったプログラム

～中田校長先生のアルバムから～



上：質問コーナー



§ 東京都町田市 小山中央小学校 で開校記念演奏 § 2017年1月27日

小山中央小学校ではHPで様々な行事を写真ニュースで発表しておられます。

同校のご了承を得て、WEB上に掲載された写真ニュースを転載致します。

小山中央小学校も、会員の風間さんのご紹介です。昨年5月にボランティアコーディネーターの山口様からの打診があり、岡部校長先生、ご担当の坂口先生のご協力を得、同校の開校記念に際しての演奏ということで、大変光栄な嬉しい活動となりました。

小山中央小学校は全校生920名の大きな小学校です。その開校記念ということで保護者の皆さまにも演奏会を開放、ほぼ1,000名の皆さま方に聴いて頂きました。演奏の最後には、「ゆかいに歩けば」と、これも恒例になった「ビリーブ」を梯さんの伴奏で皆さんが共に元気に歌っていただいた一方、音楽の先生の伴奏で全校生で校歌をプレゼントして下さいました。

また、PTAの皆さまからは、この活動に対しご支援としてご寄附を賜りました。今後の全国の小中学校へのクラシック音楽をお届けするこの活動に資して参ります。心から御礼申し上げます。 (事務局 星田啓子)

小山中央写真ニュース

1166号 2017年2月2日

「7回目の 開校記念コンサート」

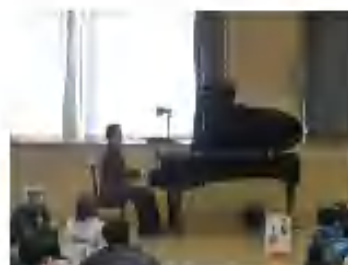
～ ピアニスト 梯 剛之さんと一緒に祝う、開校記念日 ～

1月29日(日)は、本校の開校記念日です。この日を祝って、1月27日(金)にピアニストの梯 剛之さんをお呼びし、開校記念コンサートを開きました。

梯 剛之さんは、幾つかの国際ピアノコンクールで最年少優勝したことを皮切りに、国内外問わず様々なコンクールで賞をとり、現在は世界的に有名なオーケストラ・ブラハ交響楽団や指揮者の小沢征爾さんと共演されています。また、任意団体「子どもに伝えるクラシック」を立ち上げ、全国の子供たちにクラシック音楽浸透を目指した活動や、被災地への心のケアを願った演奏活動にも力を注いでいらっしゃいます。

この日は、体育館中に響く美しい音で、『チャイコフスキー 「四季」より 11月 トロイカ』『ドビッシェ 2つのアラベスク』『ショパン スケルツォ第2番 変ロ短調』を演奏してくださいました。また、梯さんの伴奏に合わせて『ゆかいに歩けば』と『ビリーブ』を児童が大きな声で歌い、共に音楽の楽しさを味わいました。最後に本校の音楽教師の伴奏で、『校歌』をプレゼントしました。美しいピアノの音色と歌声で、会場の皆の心が一つになりました。

梯様、「子どもに伝えるクラシック」の皆様、梯さんFCの皆様、素晴らしい時間をありがとうございました。



開校記念日を祝う演奏会  
給食にもお赤飯が！！

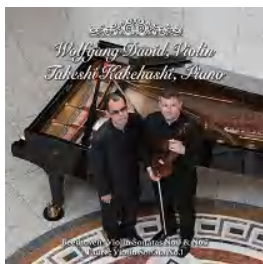


代表の皆さん方から  
の花束贈呈です

## 事務局 便り

※公演情報は別紙

## ■CD ウォルフガング・ダヴィッド&amp;梯剛之デュオ・リサイタルVol. 3 December 2015



本会報1頁(毎日新聞/クラシック特選盤)、4頁(レコード芸術2017年2月号 準特選盤)にてご紹介しているCDです。

## 【収録曲】

フォーレ : ヴァイオリン・ソナタ 第1番 イ長調 作品13  
 ベートーヴェン : ヴァイオリン・ソナタ 第3番 変ホ長調 作品12-3  
 : ヴァイオリン・ソナタ 第7番 ハ短調 作品30-2

SONARE1032 ¥2,400(税抜) ¥2,592(8%税込)

⇒ファンクラブでは割引(2,400円消費税込、送料込)でお分けします。

会員の方は下記梯剛之オフィシャルファンクラブへお申し込みください。

E-mail takeshikakehashiofc@gmail.com

FAX: 03-3421-9772

## ■CD 2016年6月東京文化会館小ホールリサイタル 【レコード芸術2016年12月号 準特選盤】



## ◇収録曲:

モーツァルト : ピアノ・ソナタ第5番 ト長調k. 283  
 : ピアノ・ソナタ第11番 イ長調 k. 331「トルコ行進曲付」  
 ベートーヴェン : ピアノ・ソナタ第8番 ハ短調Op.13「悲愴」  
 : ピアノ・ソナタ第31番 変イ短調Op.110

SONARE1031 ¥2,400(税抜) ¥2,592(8%税込)

⇒ファンクラブでは割引(2,400円消費税込、送料込)でお分けします。

会員の方は下記梯剛之オフィシャルファンクラブへお申し込みください。

E-mail takeshikakehashiofc@gmail.com

FAX: 03-3421-9772

編集発行 2017年 5月 吉日  
 梯剛之オフィシャルファンクラブ (会長 加藤 秀明)

発行人 事務局長 稲田 俊介  
 編集人 星田 啓子 原稿整理・校正 松本 節子  
 〒351-0011埼玉県朝霞市本町1-33-38  
 E-mail: takeshikakehashiofc@gmail.com  
 電話:090-6448-9324 FAX: 03-3421-9772

協力:米沢信用金庫  
 NPO 子どもに伝えるクラシック  
 八王子六つ星会(点訳)  
 古家峰子・上海道洋子(発送手配)



“子どもに伝えるクラシック”

下記のWEBで活動状況更新をしています

<http://classic-for-children.org/>

梯剛之公式HP

公演情報を更新しています。

<http://kakehashi-takeshi.com/JA/index.html>